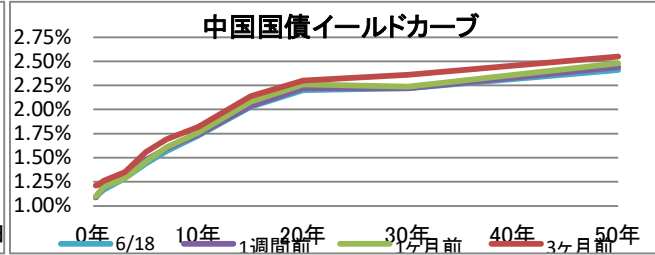
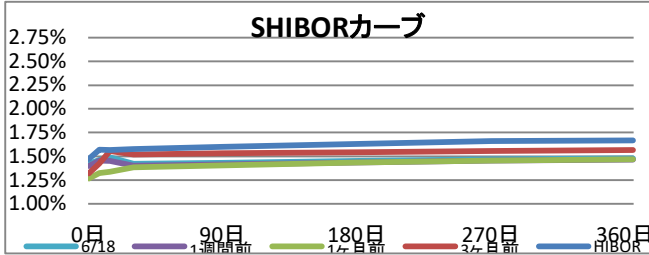


1. 市場概況

基準レート		2026/6/18	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.8130	+0.0021
	JPY/CNY	4.2336	-0.0083
SHIBOR	3M	1.4300%	+0.0160%
国債利回り	10年	1.73%	-0.01%
上海総合指数		4,090.48	+58.97



(1) 概況

国際金融市場は、堅調な経済指標やウォーシュ新議長によるFOMCでの年内利上げ示唆から短期債利回りは上昇したものの、米イラン戦闘終結合意とホルムズ海峡再開による原油価格下落を慎重ながら好感し、長期債利回りは低下を維持し、株式市場も上昇を続け、外為市場ではドルが強含んだことから、金は反発後の高値を維持できず、ビットコインも下落する展開。

中国金融市場では、原油価格の低下を受けた世界的な長期金利の低下に加えて、国内経済指標の悪化から、四半期末を前に債券利回りが低下に転じ、株式市場も不動産や銀行は軟調ながら半導体やAI関連を中心に堅調に推移し、外為市場ではドルが底堅く、1ドル=6.76前後での小幅な値動きに終始する展開となった。

中国では、国務院は、公表した「グローバルガバナンス白書」で、国連の中核的地位の擁護、多国間貿易体制擁護とグローバルサウスによる役割発揮等の重要性を強調し、「雇用優先戦略・第15次5か年計画」では、AIの発展に即した雇用と企業の発展、人材形成の加速、若者の就業ルート拡大等を重視する方針を示し、国家金融監督管理総局は、「銀行・保険業のAIの安全な開発・応用に関する指導意見」で、AI技術の応用とリスク防止等を目的に、ガバナンス体制やデータリスク管理強化等について指導意見を提示。上海開催の陸家嘴フォーラムでは、中国人民銀行等が「上海国際金融センターのオフショア金融発展行動計画」を公表し、中国企業の対外投資及び「一帯一路」に対するオフショア金融サービスの支援強化を軸に、2035年末までの金融制度・法体系整備等の目標を掲げ、何立峰副総理が、上海での先行実施を通じてオフショア金融市場を進展させ、人民元建て資産のグローバルな資産配分・リスク管理センター機能の強化、越境貿易・投資の利便化向上等を図る方針を示し、中国人民銀行・潘行長は、金融政策フレームワークの改善策として、臨時翌日物レポ金利の調整による金利コリドー幅の70bpから50bpへの縮小や海外中銀等を対象としたレポ取引認可、上海自貿区でのオフショア人民元為替取引の試験的実施等を公表し、国家外貨管理局・朱局長は、中国企業による対外直接投資や対外債務等の為替管理簡素化や新たな適格国内機関投資家(QDII)の投資枠付与等の方針を示した。中国人民銀行は、国家インターネット情報弁公室等と金融情報サービスデータに関するガイドラインを公表し、上海で銀行間市場データ報告センターを開業し、NAFMIIが上海に事務所を開設。また、香港では、香港取引所(HKEX)が8月3日から5年物人民元建て国債先物を上場し、香港取引所とHKMAがデリバティブの時間外取引向けデジタル決済ソリューションのパイロットプロジェクトを開始。なお、5月末の海外投資家による国債保有高は3.21兆元(約75兆円)と前月比で13ヶ月振りに増加に転じた。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日7,190億元、アウトライトリバースオペ期日6,000億元、中央国庫現金管理商業銀行定期預金期日2,500億元に対し、リバースオペ15,428億元、アウトライトリバースオペ6,000億元により5,738億元を供給。また、6/23に中央国庫現金管理商業銀行定期預金2,800億元(1M1,000億元、3M1,800億元)の入札実施が発表されている。

(3) 主な経済指標

- ・小売売上高(5月)は、前年比-0.6%(4月、同+0.2%)と2022年12月以来のマイナス転化。住宅需要の低迷から建築資材や家具が前年割れを続ける中、飲食関係の伸びが鈍化したほか、昨年の買い替え補助政策の反動から自動車や家電がマイナス幅を拡大し、全体を押し下げた。前月比も-0.38%(4月-0.55%)と3カ月連続のマイナス。
- ・鉱工業生産(5月)は、前年比+4.5%(4月、同+4.1%)と伸び拡大。需要喚起効果が一巡した自動車や携帯電話がマイナス幅を拡大したが、電力などエネルギー関連が伸びを高めたほか、政策支援を受ける集積回路や工業用ロボット、ハイテク関連の伸びが更に拡大し、全体を押し上げた。前月比も+0.40%と4月(+0.05%)対比伸びを拡大。

2. 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.4210%	1.4300%	1.4440%	
1W	1.4620%	1.5100%	1.4719%	1.3500%
2W	1.4890%	1.5000%	1.5235%	1.4100%
1M	1.4200%	1.4000%	1.5060%	1.4200%
3M	1.4300%	1.4000%		1.4400%
6M	1.4500%			1.4500%
9M	1.4700%		1.5500%	1.4700%
12M	1.4800%	2.0000%		1.4800%

中国人民銀行は、納税によりタイト化する市場への資金供給姿勢を明確にしたことから、四半期末を控えた市場に一定の安心感が広がり、金利水準の上昇に歯止めがかかっている。四半期末越えとなるターム物は、1カ月の1.4%台半ばでの出会いを中心とする状況が続いている。

NCD市場の金利水準も、週前半は資金需給のタイト化により上昇が続いていたものの、中国人民銀行の積極的な資金供給により週半ば以降は落ち着きを取り戻し、ターム物の金利水準は1カ月から3カ月までが1.4%台前半、6カ月は1.4%台半ば、1年は1.4%台後半での取引が続いている。

(2) 米ドル資金(本土内)

	BID	OFFER
ON	3.65%	3.66%
1W	3.71%	3.72%
1M	3.80%	3.85%
3M	3.85%	3.90%
6M	3.90%	4.00%
12M	4.00%	4.10%

中国国内市場では、引き続き短期の需給に問題ないものの、利上げ懸念から出し手が限定的な状況から出会いなく気配が高止まりする状況に変わりなく、ターム物は1カ月の3.8%台前半での出会いが中心。

3.人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.09%		1.44%	1.49%	1.53%
6M	1.12%		1.45%	1.51%	1.55%
1Y	1.17%	1.26%	1.49%	1.52%	1.58%
3Y	1.29%	1.40%	1.53%	1.64%	1.79%
5Y	1.44%	1.54%	1.65%	1.76%	1.99%
10Y	1.73%	1.85%	2.00%	2.11%	2.57%

米国債券市場は、FOMCを控えて中東での戦闘終結覚書への合意による原油価格の更なる下落への反応は限定的となる中、堅調な経済指標とFOMCで年内利上げが示唆されたこと等で、短期債利回りは上昇し、中長期では下げ渋る展開となった。

中国債券市場は、海外債券市場では債券利回りの低下に加え、四半期末が迫る中で経済指標の悪化から、買い仕かりの展開。イーロードカーブは、中長期の信用債を中心に全体的に低下に転じ、クレジットスプレッドは若干縮小。

この結果、10年米国国債利回りは4.45%（前週末比-3bp）へと低下を続け、10年中国国債利回りは1.73%（同-1bp）へと低下に転じたことから、利回り差は272bp（同-2bp）へと小幅ながら縮小が続いている。

4.先物為替市場

	USD / CNY
1M	-137.0 / -135.0
3M	-421.0 / -419.0
6M	-851.0 / -848.0
9M	-1,285.0 / -1,280.0
12M	-1,735.0 / -1,730.0

対ドル基準レートは6.8130と前週末比+21pipsのドル高元安、対円基準レートは4.2336と同-83pipsの円安元高と、対ドル基準レートは、2023年2月以来の元高水準ながら、実勢比では大幅な元安水準での設定が続いている。

中国国内市場では、週初は米国とイランとの停戦合意を受けて前週末の1ドル=6.76台前半から6.75台後半へと元高が進んでいたものの、中国人民銀行が実勢比で大幅な元安水準の基準値設定を続けたことや5月の経済統計の弱さに加え、米FOMCでの政策金利予想が利上げを示唆していたこと等からドル高となり、1ドル=6.76台に戻して週末を迎えた。

先物は、FOMC後の利上げ懸念の高まりから、長めの期間でのディスカウント幅が拡大に転じており、1年物が-1,700台前半にやや拡大している。

5.金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	1.47%		1.40%
6M	1.46%	1.45%	1.40%
9M	1.45%	1.46%	1.40%
1Y	1.44%	1.46%	1.40%
3Y	1.46%	1.49%	1.40%
5Y	1.52%	1.57%	
7Y	1.58%	1.64%	
10Y	1.66%	1.72%	

金利スワップ市場は、四半期末を意識した短期資金市場での金利の上昇が続く一方、債券利回りは低下に転じたことから、スワップレートもやや大幅な低下に転じ、その低下幅が債券利回りの低下幅を上回っていることから、スワップスプレッドは小幅ながら一段と縮小している。

6.その他（週末に公表された経済指標等）

- ・米国とイランは、21日にスイスで戦闘終結協議を開始。
- ・イギリスのスターマー首相が、SNSで辞任する旨を投稿。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入